

平成28年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成29年4月12日

研究・研修課題名	心臓リハビリテーション指導士取得および資格更新のための補助
研究・研修組織名（所属）	リハビリテーション部
研究・研修責任者名（所属）	中隅 濃
共同研究・研修者名（所属）	今岡 圭、黒崎 育美 伊藤 郁子

目的及び方法、成果の内容

①目 的（800字程度）

心疾患を有する患者は全国的に増加傾向であり当院における心疾患患者に対するリハビリテーションも重要性を増している。現在、本院理学療法士3名が心臓リハビリテーション指導士（以下：心リハ指導士）を取得し、心臓リハビリテーション（以下：心リハ）を提供している。しかし、心大血管リハビリ料を算定する患者数の増加に伴い、心リハ指導士の確保と質の担保が課題となっている。既取得の心リハ指導士についても技術、知識の向上をはかるとともに、心リハ指導士資格は5年更新であるため心リハ指導士資格を更新するための単位を獲得することもあわせて目標とする。

また、心リハ指導士の増員をはかるため、心リハ指導士受験資格獲得のための研修のため1名の理学療法士を国立循環器病センターへ派遣する。

②方 法（800字程度）

心リハ指導資格を既取得の理学療法士3名が、2016年7月16-17日に東京国際フォーラムで開催される第22回心臓リハビリテーション学会学術集会（以下：心リハ学会）へ参加し、知識、技術の向上をはかると共に、心リハ指導士資格更新のためのポイントを取得する。

心リハ指導士資格未取得の理学療法士1名が国立循環器病センターに指導士試験受験のための研修を受講し、2017年7月17日に岐阜で行なわれる心リハ指導士試験の受験資格を取得する。

③成 果（データ等の図表を入れて2000字程度）

資格更新

心リハ学会に有資格の理学療法士（今岡圭、黒崎育美、中隅濃）が参加し、資格更新のためのポイント15ポイントをそれぞれが取得した。

心リハ学会では、それぞれが基礎講座において循環器疾患に携わる際に必要なフィジカルアセスメント、運動中の循環生理と心疾患の関係、二次予防における薬物知識、運動耐容能の評価に必要なCPXの運用等を再確認した。

また、本院でもよく見かける慢性腎臓病合併症例に対しての心リハが取り上げられており、運動療法の腎機能への効果についても最新の知見をえることができた。

心リハ学会においても、臨床で難渋するフレイルの話題が取り上げられており、他施設での取り組みなどを学ぶことが出来た。フレイルの基準も統一されておらず、他施設でもフレイルの取り組みに

については難渋しているようであった。

現在、本院を退院された後、心リハを継続して行える施設がなく、退院後の心リハの継続に難渋しているが、他の地域では、ICT を利用し遠隔地での生の患者情報を得て、病気の早期から治療を開始できたり、病院が主体となり率先して有酸素運動を行う機会を設けるなどしており、本院でも取り入れることが可能ではないかと考えた。

トピックスとして 2020 年に開催される東京オリンピックへの心リハの関わりが提言されており、鈴木大地スポーツ庁長官の講演も行なわれた。

資格取得

本院では今後、ハイブリッド手術室が設けられ TAVI などの治療が検討されていることや人工補助心臓を用いた治療が開始されることが予定されている。このような未経験領域について、先行施設での研修を行うことが患者の安全確保、ならびに円滑な運営に必要と考えられるため 2016 年 7 月 25 ～29 日の 1 週間にわたり国立循環器病センター（以下:国循）へ理学療法士伊藤郁子を派遣した。

国循では本院では行われていない外来心リハ患者の集団療法や集団指導、人工補助心臓患者の心リハの介入等を見学でき、研修担当の医師、コメディカルスタッフの指導の下、10 症例のレポートを作成した。

国循への研修と 10 症例の作成により、伊藤郁子は 2017 年 7 月 17 日に岐阜で行なわれる心リハ指導士試験の受験資格を得た。

詳細は別紙参照。